

「銃 砲 史 研 究」 総 目 録

(第 1 号 ～ 第 350 号)

平成 18 年 6 月

日本銃砲史学会編

「銃砲史研究」総目録 (第1号 ～ 第350号)

IDNo.	号数	年 月	著 者	題 目	ページ	備 考
1	1	S43. 6	所 莊 吉	種子島伝来銃についての考察	01～08	
2	1	S43. 6	有 馬 成 甫	ポルトガルの東方進出史 (其1)	09～18	
3	2	S43. 7	有 馬 成 甫	銃砲史学会の新しい進路について	01～04	
4	2	S43. 7	南 坊 平 造	火薬は誰が発明したか (工業火薬協会昭和42年7～8月号、9～10月号の写し)	別冊	
5	2	S43. 7	有 馬 成 甫	ポルトガルの東方進出史 (第2回)	05～12	
6	2	S43. 7	有 馬 成 甫	青圖文庫収蔵西洋兵学書目録 (1)	13～21	
7	3	S43. 9	福 地 復 彦	唐津城跡の南蛮大砲に就いて	01～08	
8	3	S43. 9	有 馬 成 甫	ポルトガルの東方進出史 (第3回)	09～15	
9	3	S43. 9	有 馬 成 甫	青圖文庫収蔵西洋兵学書目録 (2)	16～23	
10	4	S43. 10	所 莊 吉	幕末の洋式銃に就いて (第1回)	01～08	
11	4	S43. 10	有 馬 成 甫	海軍火薬事業沿革	09～19	
12	4	S43. 10	有 馬 成 甫	ポルトガルの東方進出史 (第4回)	20～34	
13	5	S43. 11	所 莊 吉	幕末の洋式銃に就いて (第2回)	01～18	
14	5	S43. 11	有 馬 成 甫	海軍に於ける無煙火薬の採用	19～35	
15	5	S43. 11	有 馬 成 甫	ポルトガルの東方進出史 (第5回)	36～45	
16	6	S43. 12	有 馬 成 甫	下瀬火薬製造所沿革	01～09	
17	6	S43. 12	所 莊 吉	幕末の洋式銃に就いて (第3回)	10～21	
18	6	S43. 12	有 馬 成 甫	ポルトガルの東方進出史 (第6回)	22～34	
19	6	S43. 12	有 馬 成 甫	青圖文庫収蔵西洋兵学書目録 (3)	35～49	
20	7	S44. 2	有 馬 成 甫	克式砲の採用について	01～12	
21	7	S44. 2	南 坊 平 造	越中五箇山村に塩硝を訪ねて	13～19	
22	7	S44. 2	有 馬 成 甫	ポルトガルの東方進出史 (第7回)	20～29	
23	8	S44. 3	有 馬 成 甫	カーネー式三十二倍砲採用の経緯	01～13	
24	8	S44. 3	安 斎 実	家康と射撃	14～19	
25	8	S44. 3	有 馬 成 甫	日本文化の要素	20～48	
26	8	S44. 3	有 馬 成 甫	青圖文庫収蔵西洋兵学書目録 (4)	49～56	
27	9	S44. 4	所 莊 吉	戦国期の火縄銃の遺品について	01～07	
28	9	S44. 4	有 馬 成 甫	山内自動閉鎖機及び山内砲架の採用	08～15	
29	9	S44. 4	有 馬 成 甫	ポルトガルの東方進出史 (第8回)	16～26	
30	10	S44. 5	所 莊 吉	和銃の時代区分について	01～06	
31	10	S44. 5	有 馬 成 甫	砲橋の問題	07～19	
32	10	S44. 5	有 馬 成 甫	ポルトガルの東方進出史 (第9回)	20～30	
33	11	S44. 6	安 斎 実	銃砲伝来当時の射撃術の理念	01～09	
34	11	S44. 6	有 馬 成 甫	速射砲の採用	10～19	
35	11	S44. 6	有 馬 成 甫	ポルトガルの東方進出史 (第10回)	20～23	最終回
36	11	S44. 6	有 馬 成 甫	青圖文庫収蔵西洋兵学書目録補遺	24～29	
37	12	S44. 7	有 馬 成 甫	海軍製鋼作業の沿革	01～17	
38	12	S44. 7	黛 治 夫	日本海海戦に於ける東郷艦隊の敵前尖角度方向転換について	18～35	
39	13	S44. 9	安 斎 実	国友鉄砲鍛冶国友覚次郎翁より直接聞いた火縄銃の作り方の話	01～07	
40	13	S44. 9	黛 治 夫	高速戦艦金剛 樺名のガナルカナル飛行場の砲撃	08～29	
41	13	S44. 9	有 馬 成 甫	ポルトガルの東方進出史の後にイギリスの印度征服統治史略	30～37	
42	14	S44. 10	南 坊 平 造	火薬の発明 その1	01～06	
43	14	S44. 10	有 馬 成 甫	日本国防史概説 その1	07～18	
44	15	S44. 12	有 馬 成 甫	日本国防史概説 その2	01～07	
45	15	S44. 12	南 坊 平 造	火薬の発明 その2	08～15	
46	15	S44. 12	山 田 太 郎	呉造兵物語 第1回	16～25	
47	16	S45. 2	白 鳥 硝 巖	銃砲語源抄	01～13	
48	16	S45. 2	有 馬 成 甫	日本国防史概説 その3	14～24	
49	16	S45. 2	所 莊 吉	堺鉄砲鍛冶雑記	25～29	
50	16	S45. 2	山 田 太 郎	呉造兵物語 第2回	30～53	

IDNo.	号数	年 月	著 者	題 目	ページ	備 考
51	17	S45. 3	南 坊 平 造	火薬の発明 その3	01～06	
52	17	S45. 3	山 田 太 郎	呉造兵物語 第3回	07～24	
53	18	S45. 4	所 庄 吉	文明移入に関する資料目録解題(1)	01～09	
54	18	S45. 4	有 馬 成 甫	日本国防史概説 その4	10～26	
55	18	S45. 4	山 田 太 郎	呉造兵物語 第4回	27～38	
56	19	S45. 5	所 庄 吉	文明移入に関する資料目録解題(2)	01～09	
57	19	S45. 5	有 馬 成 甫	日本国防史概説 その5	10～30	
58	20	S45. 6	所 庄 吉	文明移入に関する資料目録解題(3)	01～12	
59	20	S45. 6	有 馬 成 甫	日本国防史概説 その6	13～18	
60	20	S45. 6	山 田 太 郎	呉造兵物語 第5回	19～40	
61	21	S45. 7	有 馬 成 甫	メキシコ征服史 その1	01～09	
62	21	S45. 7	所 庄 吉	文明移入に関する資料目録解題(4)	10～19	
63	21	S45. 7	南 坊 平 造	古代火薬史年表 第4回	巻末 6 頁	
64	22	S45. 9	奥 村 正 二	幕末史の二つの疑問点、黒船と海軍学校 について	01～03	
65	22	S45. 9	所 庄 吉	文明移入に関する資料目録解題(5)	04～10	
66	22	S45. 9	有 馬 成 甫	メキシコ征服史 第2回	11～22	
67	23	S45. 10	有 馬 成 甫	メキシコ征服史 第3回	01～08	
68	23	S45. 10	所 庄 吉	文明移入に関する資料目録解題(完)	09～18	
69	24	S45. 11	南 坊 平 造	火薬の発明 第5回	01～06	
70	24	S45. 11	山 田 太 郎	呉造兵物語 第6回	07～28	
71	24	S45. 11	有 馬 成 甫	メキシコ征服史 第4回	29～33	
72	24	S45. 11	所 庄 吉	海軍学校に就ての私見	34～39	
73	25	S45. 12	奥 村 正 二	金属定量分析技術の系譜	01～04	
74	25	S45. 12	所 庄 吉	唐津城鉄砲古事弁妄	05～23	
75	25	S45. 12	有 馬 成 甫	メキシコ征服史 第5回	24～28	
76	26	S46. 2	所 庄 吉	奇銃考	01～06	
77	26	S46. 2	山 田 太 郎	呉造兵物語 第7回	07～16	
78	26	S46. 2	南 坊 平 造	火薬の発明 第6回	17～20	
79	27	S46. 3	奥 村 正 二	造銃から造幣へ	01～04	
80	27	S46. 3	有 馬 成 甫	メキシコ征服史 第6回	05～13	
81	27	S46. 3	所 庄 吉	大砲術に与えたオランダの影響 第1回	14～20	
82	28	S46. 4	戸 塚 芳 男	水戸の反射炉	01～08	
83	28	S46. 4	山 田 太 郎	呉造兵物語 第8回	09～23	
84	28	S46. 4	有 馬 成 甫	メキシコ征服史 第7回	24～28	
85	29	S46. 5	有 馬 成 甫	メキシコ征服史 第8回	01～05	
86	29	S46. 5	所 庄 吉	大砲術に与えたオランダの影響 第2回	06～18	
87	30	S46. 6	南 坊 平 造	火薬の発明 第7回	01～10	
88	30	S46. 6	山 田 太 郎	呉造兵物語 第9回	11～18	
89	30	S46. 6	有 馬 成 甫	メキシコ征服史 第9回	19～23	
90	31	S46. 7	有 馬 成 甫	メキシコ征服史 第10回	01～05	
91	31	S46. 7	南 坊 平 造	花火はどこから日本に伝わったか	06～14	
92	31	S46. 7	所 庄 吉	我が国に於ける硝石の価格	15～21	
93	31	S46. 7	高 井 稔次郎	艦砲射撃術 その1	22～27	
94	32	S46. 9	有 馬 成 甫	メキシコ征服史 第11回	01～05	
95	32	S46. 9	山 田 太 郎	呉造兵物語 第10回	06～13	
96	32	S46. 9	所 庄 吉	大砲術に与えたオランダの影響 第3回	14～32	
97	33	S46. 10	有 馬 成 甫	葦山の反射炉	01～13	
98	33	S46. 10	山 田 太 郎	呉造兵物語 第11回	14～32	
99	33	S46. 10	所庄吉・吉岡新一	国友鍛冶による定式三匁五分玉筒	33～47	共著
100	34	S46. 11	南 坊 平 造	火薬の発明 第8回	01～06	
101	34	S46. 11	山 田 太 郎	海軍工作庁年表(1)	07～23	
102	34	S46. 11	所 庄 吉	国友資料による銃砲の価格について	24～49	
103	35	S46. 12	南 坊 平 造	火薬の発明 第9回	01～10	
104	35	S46. 12	高 井 稔次郎	艦砲射撃術 第2回	11～21	
105	35	S46. 12	所 庄 吉	国友資料による彦根一件	22～36	
106	35	S46. 12	所庄吉・吉岡新一	史料紹介 国友鍛冶文書 (1)	37～44	共著

IDNo.	号数	年 月	著 者	題 目	ページ	備 考
107	36	S47. 2	所 莊 吉	国友鍛冶の由来	01～18	
108	36	S47. 2	南 坊 平 造	火薬の発明 第10回	19～26	
109	36	S47. 2	高 井 稔次郎	艦砲射撃術 第3回	27～38	
110	36	S47. 2	所莊吉・吉岡新一	史料紹介 国友鍛冶文書 (2)	39～53	共著
111	37	S47. 3	所 莊 吉	国友鉄砲鍛冶年寄制度の研究	01～22	
112	37	S47. 3	所 莊 吉	資料紹介 東洋諸国の古銃概況	23～34	
113	37	S47. 3	所莊吉・吉岡新一	史料紹介 国友鍛冶文書 (3)	35～41	共著
114	38	S47. 4	山 田 太 郎	海軍工作庁年表 (2)	01～15	付録 日本火薬 史年表 他
115	38	S47. 4	所 莊 吉	国友十人方鍛冶について	16～34	
116	38	S47. 4	山 田 太 郎	初期の呉海軍工廠 海田仁助老の談話	35～39	
117	39	S47. 5	山 田 太 郎	光海軍工廠のことども (1)	01～10	
118	39	S47. 5	有 馬 成 甫	生麦事件と薩英戦争 (1)	11～25	
119	39	S47. 5	所 莊 吉	一貫斎の気砲をめぐって	26～42	
120	40	S47. 6	有 馬 成 甫	生麦事件と薩英戦争 (2)	01～18	
121	40	S47. 6	所 莊 吉	国友に於ける鉄砲製作の起源	19～50	
122	40	S47. 6	所莊吉・吉岡新一	史料紹介 国友鍛冶文書 (4)	51～54	共著
123	41	S47. 7	所 莊 吉	木砲雄威一江川担庵の木砲一	01～10	
124	41	S47. 7	安 斎 実	合武三鳥流船軍学森重流砲術について	11～29	
125	41	S47. 7	所莊吉・吉岡新一	史料紹介 国友鍛冶文書 (5)	30～44	共著
126	42	S47. 9	山 田 太 郎	海軍工作庁年表 (3)	01～18	
127	42	S47. 9	所 莊 吉	大阪役以後の国友鉄砲鍛冶	19～29	
128	42	S47. 9	山 田 太 郎	承前・海軍製鋼作業の沿革	30～37	
129	43	S47. 10	所 莊 吉	若拙国友戸十郎のことども	01～12	
130	43	S47. 10	山 田 太 郎	光海軍工廠のことども (2)	13～23	
131	43	S47. 10	山 田 太 郎	海軍工作庁年表 (最終回)	24～28	
132	44	S47. 11	奥 村 正 二	幕末反射炉の技術的評価	01～06	
133	44	S47. 11	所 莊 吉	国友鉄砲鍛冶について	07～24	
134	44	S47. 11	川 北 智 三	射撃競技の為の「精密弾道学」の古典的研究 (1)	25～29	
135	45	S47. 12	所 莊 吉	国友鉄砲の上納	01～27	
136	45	S47. 12	川 北 智 三	射撃競技の為の「精密弾道学」の古典的研究 (2)	28～37	
137	45	S47. 12	山 田 太 郎	Q四施設について 附表共	38～53	
138	46	S48. 2	南 坊 平 造	設楽原の鉄砲戦と鉄砲薬	01～10	
139	46	S48. 2	田 中 宏 巳	清初紅衣砲車の輸送問題	11～21	
140	46	S48. 2	川 北 智 三	射撃競技の為の「精密弾道学」の古典的研究 (3)	22～39	
141	46	S48. 2	所 莊 吉	国友鉄砲鍛冶の身分について	40～46	
142	47	S48. 3	所 莊 吉	木尾事件 鉄砲制作の耐火土をめぐって	01～15	
143	47	S48. 3	奥 村 正 二	和鉄で大砲が作られたか. 大橋高炉建造の出発点	16～21	
144	47	S48. 3	山 田 太 郎	呉海軍工廠電気関係部回顧	22～33	
145	48	S48. 4	川 北 智 三	射撃競技の為の「精密弾道学」の古典的研究 (4)	01～18	
146	48	S48. 4	所 莊 吉	国友鉄砲鍛冶の生活	19～40	
147	48	S48. 4	南 坊 平 造	日本の火薬の歴史(附図共)(その1)	41～59	
148	49	S48. 5	所 莊 吉	国友鉄砲鍛冶の定式配分について	01～17	
149	49	S48. 5	川 北 智 三	射撃競技の為の「精密弾道学」の古典的研究(最終回)	18～29	
150	49	S48. 5	太 田 弘 毅	明代の海上火器について (前)	31～50	
151	49	S48. 5	南 坊 平 造	日本の火薬の歴史 (その2)	51～66	
152	50	S48. 6	山 田 太 郎	艦砲の事故について	01～22	
153	50	S48. 6	所 莊 吉	国友に於ける定式筒のおこり	23～51	
154	50	S48. 6	太 田 弘 毅	明代の海上火器について (後)	52～63	
155	51	S48. 7	所 莊 吉	国友に対する幕府諸組の銃砲注文	01～12	
156	51	S48. 7	南 坊 平 造	日本の火薬の歴史 (その3)	13～22	

IDNo.	号数	年 月	著 者	題 目	ページ	備 考
157	52	S48. 9	訃 報	本会会長 文学博士 有馬成甫 先生の永眠	01～01	
158	52	S48. 9	山 田 太 郎	補遺 艦砲の事故について（1）	02～17	
159	52	S48. 9	所 荘 吉	承前 国友鍛冶について	18～35	
160	52	S48. 9	南 坊 平 造	日本の火薬の歴史年表（1～7表）（第1回）	36～39	
161	53	S48. 10	山 田 太 郎	補遺 艦砲の事故について（2）	01～11	
162	53	S48. 10	山 田 太 郎	有馬成甫博士著書および論文紹介（1）	10～16	
163	53	S48. 10	所 荘 吉	有馬成甫先生と国友一貫斎	17～18	
164	53	S48. 10	南 坊 平 造	日本の火薬の歴史年表（8～10表）（第2回）	19～20	
165	54	S48. 11	南 坊 平 造	有馬博士と火薬の歴史	01～09	
166	54	S48. 11	所 荘 吉	幻の名工国友丹波大録橋宗俊	10～17	
167	54	S48. 11	黛 治 夫	海軍砲の射撃効果について 附表共	18～31	
168	55	S48. 12	所 荘 吉	国友鉄砲鍛冶年寄りの権限について	01～15	
169	55	S48. 12	内 田 亮之輔	艦砲の事故についての回想	16～35	
170	56	S49. 2	所 荘 吉	国友鍛冶による鉄砲の製作法	01～46	
171	56	S49. 2	南 坊 委員長	種子島博物館における鉄砲火薬展示室開設委員会報告	47～49	
172	57	S49. 3	所 荘 吉	国友十人方鉄砲鍛冶の子孫を求めて	01～08	
173	57	S49. 3	山 田 太 郎	有馬成甫博士著書および論文紹介（2）	09～15	
174	58	S49. 4	山 田 太 郎	資料 艦載砲の配置について	01～23	
175	58	S49. 4	所 荘 吉	国友鉄砲鍛冶の作品（1）	24～38	
176	59	S49. 5	所 荘 吉	国友鉄砲鍛冶の作品（2）	01～11	
177	59	S49. 5	山 田 太 郎	有馬 成甫博士著書および論文紹介（3）	10～25	
178	60	S49. 6	所 荘 吉	弘化以後における国友鉄砲鍛冶	01～12	
179	60	S49. 6	山 田 太 郎	有馬 成甫博士著書および論文紹介（4）	13～22	
180	60	S49. 6	山 田 太 郎	資料 軍艦金剛の主砲の決定経緯	23～26	
181	61	S49. 7	山 田 太 郎	有馬 成甫博士著書および論文紹介（5）	01～15	
182	61	S49. 7	所 荘 吉	鉄砲伝来論攷 第1回	16～38	
183	62	S49. 9	山 田 太 郎	有馬 成甫博士著書および論文紹介（6）	01～09	
184	62	S49. 9	所 荘 吉	鉄砲伝来論攷 第2回	10～22	
185	62	S49. 9	南 坊 平 造	明治維新の銃砲戦力の研究（1）	23～44	
186	62	S49. 9	戸 塚 芳 男	書評 断水樓主人池亮吉氏の著訳書を読んで	45～46	
187	63	S49. 10	所 荘 吉	鉄砲伝来論攷 第3回	01～20	
188	63	S49. 10	川 越 重 昌	佐藤信淵の徳島製砲一件裏付資料を求めて	21～29	
189	63	S49. 10	南 坊 平 造	明治維新の銃砲戦力の研究（2）	30～43	
190	64	S49. 11	山 田 太 郎	有馬 成甫博士著書および論文紹介（7）	01～14	
191	64	S49. 11	所 荘 吉	鉄砲伝来論攷（こう）（最終回）	15～27	
192	65	S49. 12	所 荘 吉	紅毛火術録の成立	01～07	
193	65	S49. 12	山 田 太 郎	日本海軍における革衝帯（バックキン）の改良について	08～24	
194	65	S49. 12	南 坊 平 造	明治維新の銃砲戦力の研究（3）	25～47	
195	66	S50. 2	安 斎 実	銃砲史研究の重要性	01～03	
196	66	S50. 2	所 荘 吉	天文以前における鉄砲伝来の実否について	04～21	
197	66	S50. 2	山 田 太 郎	有馬 成甫博士著書および論文紹介（8）	22～30	
198	67	S50. 3	所 荘 吉	西洋兵学書翻訳の発端	01～10	
199	67	S50. 3	南 坊 平 造	明治維新の銃砲戦力の研究（4）	11～26	
200	68	S50. 4	山 田 太 郎	有馬 成甫博士著書および論文紹介（9）	01～13	
201	68	S50. 4	所 荘 吉	稲富一夢略伝（前）	14～25	
202	69	S50. 5	山 田 太 郎	豊川海軍工廠の事跡	01～16	
203	69	S50. 5	南 坊 平 造	明治維新の銃砲戦力の研究（5）	17～43	
204	70	S50. 6	山 田 太 郎	有馬 成甫博士著書および論文紹介（10）	01～15	
205	70	S50. 6	南 坊 平 造	明治維新の銃砲戦力の研究（6）	16～47	
206	71	S50. 7	所 荘 吉	稲富一夢略伝（後）	01～12	

IDNo.	号数	年 月	著 者	題 目	ページ	備 考
207	71	S50. 7	川 越 重 昌	徳島藩内の鉄砲鍛冶総数二百二十四名 確認	13～19	
208	71	S50. 7	山 田 太 郎	補遺 豊川海軍工廠の事跡	20～22	
209	72	S50. 9	川 越 重 昌	火縄銃の的中率（徳島県）	01～16	
210	72	S50. 9	南 坊 平 造	明治維新の銃砲戦力の研究（7）	17～27	
211	72	S50. 9	山 田 太 郎	有馬 成甫博士著書および論文紹介（11）	28～36	
212	73	S50. 10	川 越 重 昌	由良浦台場（淡路）築造始末	01～10	
213	73	S50. 10	山 田 太 郎	日本海軍最初の弾道表について	11～15	
214	74	S50. 11	川 越 重 昌	徳島藩砲術流派史の縮図	01～08	
215	74	S50. 11	南 坊 平 造	明治維新の銃砲戦力の研究（最終回）	09～46	
216	75	S50. 12	川 越 重 昌	徳島藩に於ける萩野流砲術の顛末	01～20	
217	76	S51. 2	川 越 重 昌	徳島藩海岸諸番所の緊張状況から見た 佐藤信淵一件	01～06	
218	76	S51. 2	山 田 太 郎	有馬 成甫博士著書および論文紹介 （補遺）	07～21	
219	77	S51. 3	大 橋 周 治	安心院（宇佐）および福岡藩の幕末 反射炉	01～08	
220	77	S51. 3	所 庄 吉	銃砲史における二、三の問題について （製法技術）	09～12	
221	78	S51. 4	川 越 重 昌	徳島藩の藩所有火縄銃備量（上）	01～22	
222	79	S51. 5	川 越 重 昌	江戸時代に於ける火術の全容 一大成をみた安盛流の構造と伝書一	01～28	
223	80	S51. 6	川 越 重 昌	徳島藩に於ける西洋砲術操練の顛末（上）	01～16	
224	80	S51. 6	所 庄 吉	鉄砲屋の昔咄操（その1）	17～25	
225	81	S51. 7	川 越 重 昌	徳島藩に於ける西洋砲術操練の顛末（下）	01～20	
226	81	S51. 7	所 庄 吉	鉄砲屋の昔咄操（その2）	21～27	
227	82	S51. 9	南 坊 平 造	鍵屋弥兵衛と両国の花火	01～15	
228	82	S51. 9	所 庄 吉	徳川幕府の銃砲取締政策について	16～33	
229	83	S51. 10	所 庄 吉	補説 天文以前における鉄砲伝来の実否 について	01～17	
230	84	S51. 11	川 越 重 昌	徳島藩焰硝史素描（1）	01～08	
231	84	S51. 11	山 田 太 郎	日本海軍の弾丸について（1）	09～25	
232	85	S51. 12	川 越 重 昌	徳島藩焰硝史素描（2）	01～12	
233	85	S51. 12	黛 治 夫	日本海軍艦砲射撃命中率の変遷（前）	13～26	
234	85	S51. 12	所 庄 吉	「砲術備要」にまつわる逸聞	27～36	
235	86	S52. 2	泉 水 巖	梨花槍について	01～12	
236	86	S52. 2	黛 治 夫	日本海軍艦砲射撃命中率の変遷（後）	13～28	
237	86	S52. 2	川 越 重 昌	徳島藩焰硝史素描（3）	29～41	
238	87	S52. 3	南 坊 平 造	五條と堺の鉄砲薬調合所	17～30	
239	87	S52. 3	川 越 重 昌	徳島藩焰硝史素描（4）	01～16	
240	88	S52. 4	所 庄 吉	「異風」について	01～04	
241	88	S52. 4	山 田 太 郎	日本海軍の弾丸について（2）	05～16	
242	88	S52. 4	川 越 重 昌	徳島藩焰硝史素描（5）	17～29	
243	89	S52. 5	大 橋 周 治	幕末武雄の銃砲事業	17～27	
244	89	S52. 5	川 越 重 昌	徳島藩焰硝史素描（6）	01～16	
245	90	S52. 6	山 田 太 郎	日本海軍の弾丸について（3）	01～11	
246	90	S52. 6	川 越 重 昌	徳島藩焰硝史素描（7）	12～29	
247	91	S52. 7	山 田 太 郎	日本海軍の弾丸について（4）	01～18	
248	91	S52. 7	川 越 重 昌	徳島藩焰硝史素描（8）	19～44	
249	92	S52. 9	川 越 重 昌	徳島藩焰硝史素描（9）	14～36	
250	92	S52. 9	所 庄 吉	佐賀反射炉の成功について	01～13	
251	93	S52. 10	山 田 太 郎	日本海軍の弾丸について（5）	19～34	
252	93	S52. 10	川 越 重 昌	徳島藩焰硝史素描（10）	01～18	
253	94	S52. 11	川 越 重 昌	徳島藩焰硝史素描（11）	01～14	
254	94	S52. 11	所 庄 吉	火縄銃のネジについて	15～23	
255	94	S52. 11	山 田 太 郎	日本海軍の弾丸について（6）	24～33	
256	95	S52. 12	所 庄 吉	疑問の人物 津田監物について	01～14	
257	95	S52. 12	川 越 重 昌	徳島藩焰硝史素描（12）	15～26	

IDNo	号数	年 月	著 者	題 目	ページ	備 考
258	96	S53. 2	南 坊 平 造	硝石の生産地	01～06	
259	96	S53. 2	山 田 太 郎	日本海軍の弾丸について (7)	07～13	
260	96	S53. 2	川 越 重 昌	徳島藩焰硝史素描 (13)	14～29	
261	97	S53. 3	南 坊 平 造	硝石生産地 (日本)	01～05	
262	97	S53. 3	山 田 太 郎	日本海軍の弾丸について (8)	06～17	
263	97	S53. 3	川 越 重 昌	徳島藩焰硝史素描 (14)	18～37	
264	98	S53. 4	川 越 重 昌	徳島藩焰硝史素描 (15)	01～17	
265	98	S53. 4	山 田 太 郎	日本海軍の弾丸について (9)	18～40	
266	99	S53. 5	南 坊 平 造	火薬、火器の伝流と硝石生産地の歴史	01～16	
267	99	S53. 5	川 越 重 昌	徳島藩焰硝史素描 (16)	17～45	
268	100	S53. 6	川 越 重 昌	徳島藩焰硝史素描 (最終回)	01～12	
269	100	S53. 6	山 田 太 郎	日本海軍の弾丸について (10)	13～24	
270	101	S53. 7	国 友 秀 夫	有馬先生との出会い	01～05	創立十周年記念 特集
271	101	S53. 7	山 田 太 郎	呉海軍工廠造兵部門今昔	06～10	
272	101	S53. 7	川 越 重 昌	山鹿素行遺篇 焰硝篇の混雑を修正する	11～16	
273	101	S53. 7	奥 村 正 二	松涛の火炮と駒場野観兵式	17～21	
274	102	S53. 9	所 庄 吉	幕末軍艦開陽丸の積載砲について	01～14	
275	102	S53. 9	岡 田 登	花火の起源とその発展 (1)	15～20	
276	103	S53. 10	岡 田 登	花火の起源とその発展 (2)	01～19	
277	103	S53. 10	山 田 太 郎	日本海軍の弾丸について (最終回)	20～32	
278	103	S53. 10	泉 水 巖	資料紹介 馮家昇著 火薬の発明と西伝 (1)	33～43	
279	104	S53. 11	川 越 重 昌	東北地方諸藩保有鉄砲(火縄銃)の製作者たち (1)	01～12	
280	104	S53. 11	岡 田 登	花火の起源とその発展 (3)	13～26	
281	104	S53. 11	泉 水 巖	資料紹介 馮家昇著 火薬の発明と西伝 (2)	27～39	
282	105	S53. 12	川 越 重 昌	最も古い頃の硝石採法の残存か ―岩手県九戸郡軽米町の古老談―	01～09	
283	105	S53. 12	岡 田 登	花火の起源とその発展 (4)	10～19	
284	105	S53. 12	泉 水 巖 訳	資料紹介 馮家昇著 火薬の発明と西伝 (3)	20～31	
285	106	S54. 2	川 越 重 昌	東北地方諸藩保有鉄砲(火縄銃)の製作者たち (2)	01～15	
286	106	S54. 2	岡 田 登	花火の起源とその発展 (5)	16～29	
287	106	S54. 2	泉 水 巖 訳	資料紹介 馮家昇著 火薬の発明と西伝 (4)	30～40	
288	107	S54. 3	川 越 重 昌	本田利明の“極秘”焰硝製法 (硝石)	01～06	
289	107	S54. 3	岡 田 登	花火の起源とその発展 (最終回)	07～17	
290	107	S54. 3	泉 水 巖 訳	資料紹介 馮家昇著 火薬の発明と西伝 (完)	18～37	
291	108	S54. 4	山 田 太 郎	呉海軍工廠の大砲発射場について	01～15	
292	108	S54. 4	川 越 重 昌	東北地方諸藩保有鉄砲(火縄銃)の製作者たち (3)	16～34	
293	109	S54. 5	川 越 重 昌	塩硝製法再開発のあけぼの	01～32	
294	110	S54. 6	山 田 太 郎	造兵事業での製鋼業 呉海軍工廠製鋼部の沿革 (1)	01～17	
295	110	S54. 6	川 越 重 昌	東北地方諸藩保有鉄砲(火縄銃)の製作者たち (4)	18～42	
296	111	S54. 7	川 越 重 昌	徳島藩に於ける幕末洋式小銃の購入について	01～17	
297	111	S54. 7	山 田 太 郎	造兵事業での製鋼業 呉海軍工廠製鋼部の沿革 (2)	18～43	
298	112	S54. 9	岡 田 登	宋代における火薬兵器の発展 (1)	01～07	
299	112	S54. 9	山 田 太 郎	造兵事業での製鋼業 呉海軍工廠製鋼部の沿革 (3)	08～31	
300	113	S54. 10	川 越 重 昌	四国に於ける火縄銃の製作者たち	01～37	
301	113	S54. 10	山 田 太 郎	造兵事業での製鋼業 呉海軍工廠製鋼部の沿革 (4)	38～50	

IDNo	号数	年 月	著 者	題 目	ページ	備 考
302	114	S54. 11	山 田 太 郎	二門の鉄製砲	01～12	
303	114	S54. 11	川 越 重 昌	幕末秩父火薬事業 序編 (1)	13～34	
304	115	S54. 12	川 越 重 昌	幕末秩父火薬事業 序編 (2)	01～19	
305	115	S54. 12	岡 田 登	宋代における火薬兵器の発展 (2)	20～27	
306	116	S55. 2	川 越 重 昌	安政初年水戸藩徳田・小妻及び天下野村 硝石製造所記録からの情報の採取 (1)	01～24	
307	116	S55. 2	岡 田 登	宋代における火薬兵器の発展 (3)	25～32	
308	117	S55. 3	佐 藤 直	新型ライフル弾二題	01～07	
309	117	S55. 3	川 越 重 昌	安政初年水戸藩徳田・小妻及び天下野村 硝石製造所記録からの情報の採取 (2)	08～32	
310	118	S55. 4	安齊 実・岡田 登	仙台花火の起源	01～09	共著
311	118	S55. 4	川 越 重 昌	安政初年水戸藩徳田・小妻及び天下野村 硝石製造所記録からの情報の採取 (3)	10～36	
312	119	S55. 5	所 莊 吉	弾道の萌芽と変則的な展開	01～16	
313	119	S55. 5	川 越 重 昌	焰硝と硝石 一仙台藩珍問答	17～20	
314	120	S55. 6	泉 水 巖	新元史「速不台伝噴火筒箭」の典拠について	01～11	
315	120	S55. 6	川 越 重 昌	安政初年水戸藩徳田・小妻及び天下野村 硝石製造所記録からの情報の採取 (4)	12～42	
316	121	S55. 7	川 越 重 昌	島根県に於ける火縄銃鍛冶について	01～10	
317	121	S55. 7	岡 田 登	仙台花火の発展	11～22	
318	121	S55. 7	泉 水 巖	新元史「速不台伝噴火筒箭」の典拠について	23～28	
319	122	S55. 9	岡 田 登	中国における流星	01～09	
320	122	S55. 9	川 越 重 昌	安政初年水戸藩徳田・小妻及び天下野村 硝石製造所記録からの情報の採取 (5)	10～38	
321	123	S55. 10	川 越 重 昌	安政初年水戸藩徳田・小妻及び天下野村 硝石製造所記録からの情報の採取 (6)	01～24	
322	123	S55. 10		銃砲史研究総目次 (第1号～第123号)	25～42	
323	124	S55. 11	岡 田 登	金汁礮 (金火缶法)	01～08	
324	124	S55. 11	南 坊 平 造	クラベル署「將軍」を読んで	09～14	
325	124	S55. 11	川 越 重 昌	安政初年水戸藩徳田・小妻及び天下野村 硝石製造所記録からの情報の採取 (7)	15～37	
326	125	S55. 12	所 莊 吉	大阪城を攻略した五十日玉筒	01～12	
327	125	S55. 12	川 越 重 昌	安政初年水戸藩徳田・小妻及び天下野村 硝石製造所記録からの情報の採取 (8)	13～42	
328	126	S56. 2	岡 田 登	金軍の郭蝦蟇の砲について	01～09	
329	126	S56. 2	川 越 重 昌	安政初年水戸藩徳田・小妻及び天下野村 硝石製造所記録からの情報の採取 (9)	10～32	
330	126	S56. 2		(附) 中居剛屏記念碑除幕にあたって	33～35	
331	127	S56. 3	所 莊 吉	井上外記正継の系譜	01～04	
332	127	S56. 3	川 越 重 昌	安政初年水戸藩徳田・小妻及び天下野村 硝石製造所記録からの情報の採取 完	05～25	
333	128	S56. 4	川 越 重 昌	幕末秩父における火薬事業 (1)	01～17	
334	128	S56. 4	所 莊 吉	幕末における洋式火砲について (1)	18～32	
335	129	S56. 5	南 坊 平 造	天正の南蛮火術	01～16	
336	129	S56. 5	岡 田 登	信長の爆竹について	17～22	
337	129	S56. 5	川 越 重 昌	幕末秩父における火薬事業 (2)	23～45	
338	130	S56. 6	岡 田 登	三河花火の起源	01～08	
339	130	S56. 6	南 坊 平 造	南蛮操流の流祖は毛利高政であった	09～15	
340	130	S56. 6	山 田 太 郎	日露役旅順口攻囲戦における海軍の砲戦 について	16～34	
341	131	S56. 7	川 越 重 昌	仙台藩内の銃砲及び火薬史覚え書 (1)	01～27	
342	131	S56. 7	鈴 木 昌 雄	銃砲技術流通の一端	28～35	
343	132	S56. 9	鈴 木 昌 雄	幕末の火薬政策	01～17	
344	132	S56. 9	川 越 重 昌	幕末秩父における火薬事業 (3)	18～51	
345	133	S56. 10	斎 藤 利 生	靖国神社の三十二ポンド砲	01～14	
346	133	S56. 10	川 越 重 昌	幕末秩父における火薬事業 (4)	14～42	
347	134	S56. 11	斎 藤 利 生	松涛の24ポンド砲に対する疑問	01～16	
348	134	S56. 11	川 越 重 昌	鳥瞰幕末南部藩製硝事業	17～48	

IDNo.	号数	年 月	著 者	題 目	ページ	備 考
349	135	S56. 12	川 越 重 昌	飛騨硝石の結晶率考	01～09	
350	135	S56. 12	所 庄 吉	開陽丸の引き揚げ品にみる兵器（前）	10～25	
351	135	S56. 12	斎 藤 利 生	露艦ナヒモフのオブコフ式 8 インチ主砲 と複合装甲	26～39	
352	136	S57. 2	川 越 重 昌	硝石製造段取日表復元法への証言	01～11	
353	136	S57. 2	所 庄 吉	開陽丸の引き揚げ品にみる兵器（後）	12～32	
354	137	S57. 3	川 越 重 昌	富山県五箇山人造硝石結晶率考	01～07	
355	137	S57. 3	山 田 太 郎	戦艦の中間砲の威力について	08～26	
356	137	S57. 3	澤 田 平	堺鉄砲鍛冶極印事件日記	26～36	
357	138	S57. 4	川 越 重 昌	承前 硝石製造復元法への証言	01～12	
358	138	S57. 4	澤 田 平	堺鉄砲記 ― ケウエル御筒	13～17	
359	139	S57. 5	所 庄 吉	開陽丸の兵装について	01～07	
360	139	S57. 5	川 越 重 昌	鳥瞰幕末南部藩製硝事業（補遺）	08～29	
361	140	S57. 6	澤 田 平	堺鉄砲鍛冶の貧困	01～10	
362	140	S57. 6	川 越 重 昌	仙台藩内の銃砲及び火薬史覚え書（2）	11～26	
363	141	S57. 7	川 越 重 昌	仙台藩内の銃砲及び火薬史覚え書（3）	01～17	
364	141	S57. 7	澤 田 平	堺の火薬業と高三家	18～25	
365	142	S57. 9	川 越 重 昌	品川台場用火薬調合所址	01～32	
366	142	S57. 9	澤 田 平	我国最初の大射撃場・堺七堂ヶ浜	33～37	
367	143	S57. 10	澤 田 平	鍛冶秘伝と極意並びに堺鉄砲の値段	01～11	
368	143	S57. 10	川 越 重 昌	仙台藩内の銃砲及び火薬史覚え書（4）	12～35	
369	144	S57. 11	所 庄 吉	高島流砲術とその影響	01～18	
370	144	S57. 11	澤 田 平	堺鉄砲記 修履鉄砲と鹿追鉄砲	19～30	
371	145	S57. 12	川 越 重 昌	或る硝石煮稼人の死	01～19	
372	145	S57. 12	山 田 太 郎	航空機搭載用 20 耗機銃	20～31	原本が間違い(著者) 海軍では機銃と言う
373	146	S58. 2	川 越 重 昌	仙台藩内の銃砲及び火薬史覚え書（5）	01～35	
374	147	S58. 3	斎 藤 利 生	小金井の銅砲	01～17	
375	147	S58. 3	川 越 重 昌	江戸時代の火薬仮比重考	18～31	
376	148	S58. 4	吉 岡 新 一	朝鮮の役における火器について	01～25	
377	148	S58. 4	斎 藤 利 生	再び靖国神社の 32 ボンド砲について	26～41	
378	148	S58. 4	山 田 太 郎	補遺 航空機搭載用 20 耗機銃	42～51	
379	149	S58. 5	斎 藤 利 生	函館五稜郭の二門の大砲	01～18	
380	149	S58. 5	川 越 重 昌	仙台藩内の銃砲及び火薬史覚え書（6）	19～42	
381	149	S58. 5	中 原 正 二	<資料紹介> 朱玉著「古代中国の火薬技術」	43～52	
382	150	S58. 6	川 越 重 昌	仙台藩内の銃砲及び火薬史覚え書（7）	01～26	
383	150	S58. 6	山 田 太 郎	続補遺 航空機搭載用 20 耗機銃	27～39	
384	151	S58. 7	川 越 重 昌	仙台藩内の銃砲及び火薬史覚え書（8）	01～12	
385	151	S58. 7	澤 田 平	井上関右衛門鍛冶屋敷	13～18	
386	151	S58. 7	川 越 重 昌	<資料紹介> 幕末硝石採取製造業の復元 （1）	19～ 112	
387	152	S58. 9	川 越 重 昌	仙台藩の鉄砲及び火薬史覚え書（9）	01～22	
388	152	S58. 9	川 越 重 昌	「江戸時代の火薬比重考」の訂正	23～25	
389	153	S58. 10	所 庄 吉	芝辻理右衛門の大砲について	01～08	
390	153	S58. 10	川 越 重 昌	品川台場用西洋流火薬の周辺	09～29	
391	153	S58. 10	館 野 孝	（資料紹介） 鈴木新田幕府合薬水車遺構	30～49	
392	154	S58. 11	川 越 重 昌	仙台藩内の銃砲及び火薬史覚え書（10）	01～28	
393	155	S58. 12	山 田 太 郎	幕末の武蔵国川口における造砲事業	01～18	
394	155	S58. 12	所 庄 吉	稲富流砲術伝書について（1）	19～33	
395	156	S59. 2	川 越 重 昌	仙台藩内の銃砲及び火薬史覚え書（11）	01～19	
396	156	S59. 2	所 庄 吉	徳川幕府の銃砲に関する職制のメモ	20～25	
397	157	S59. 3	川 越 重 昌	仙台藩内の銃砲及び火薬史覚え書（12）	01～23	
398	157	S59. 3	山 田 太 郎	（続） 幕末の武蔵国川口における造砲 事業	24～37	
399	158	S59. 4	川 越 重 昌	仙台藩の鉄砲及び火薬史覚え書（13）	01～32	
400	158	S59. 4	澤 田 平	芝辻長左衛門保敬	33～42	
401	159	S59. 5	川 越 重 昌	仙台藩内の銃砲及び火薬史覚え書（14）	01～48	

IDNo.	号数	年 月	著 者	題 目	ページ	備 考
402	160	S59. 6	川 越 重 昌	花巻周辺における幕末硝石採取製造業の復元(2)	01～53	
403	161	S59. 7	川 越 重 昌	仙台藩内の銃砲及び火薬史覚え書(15)	01～16	
404	161	S59. 7	山 田 太 郎	資料 初期東京地区の日本海軍の工作庁について(1)	17～27	
405	162	S59. 9	川 越 重 昌	品川台場火薬庫及び収納法の復元(上)	01～17	
406	162	S59. 9	山 田 太 郎	資料 初期東京地区の日本海軍の工作庁について(2)	18～28	
407	163	S59. 10	川 越 重 昌	品川台場火薬庫及び収納法の復元(中)	01～24	
408	163	S59. 10	山 田 太 郎	初期東京地区の日本海軍の工作庁について「海軍造兵史」の紹介(3)	25～41	
409	163	S59. 10	所 庄 吉	(承前) 芝辻理右衛門の大砲について	42～47	
410	164	S59. 11	川 越 重 昌	古典技術によるミニ硝石製造法	01～31	
411	164	S59. 11	山 田 太 郎	資料 初期東京地区の日本海軍の工作庁について(4)	32～47	
412	165	S59. 12	川 越 重 昌	仙台藩内の銃砲及び火薬史覚え書(16)	01～26	
413	165	S59. 12	所 庄 吉	(資料紹介) 徳島藩武具御定書抜粋	27～39	
414	166	S60. 2	川 越 重 昌	仙台藩内の銃砲及び火薬史覚え書(17)	01～21	
415	166	S60. 2	山 田 太 郎	資料 初期東京地区の日本海軍の工作庁について(5) 「海軍造兵史」の紹介	22～35	
416	166	S60. 2	斎 藤 利 生	横須賀三笠公園のガトリング銃	36～46	
417	167	S60. 3	斎 藤 利 生	ガトリング機銃の我国への導入	01～15	
418	167	S60. 3	川 越 重 昌	仙台藩内の銃砲及び火薬史覚え書(18)	16～46	
419	167	S60. 3	山 田 太 郎	資料 初期東京地区の日本海軍の工作庁について(6) 「海軍造兵史」の紹介	47～63	
420	168	S60. 4	粕 谷 利 一	硝石考現学	01～28	
421	168	S60. 4	山 田 太 郎	資料 初期東京地区の日本海軍の工作庁について(7) 「海軍造兵史」の紹介	29～47	
422	168	S60. 4	斎 藤 利 生	安乗崎の鋳鉄砲	48～57	
423	169	S60. 5	中 原 正 二	黒色火薬の起源に関する種々の論説	01～12	
424	169	S60. 5	川 越 重 昌	仙台藩内の銃砲及び火薬史覚え書(19)	13～33	
425	169	S60. 5	有 馬 成 甫 編	<資料>昭和9年5月24日起案 海軍砲熷史編纂資料一号敷根火薬製造所始末	34～40	
426	170	S60. 6	生 田 豊太郎	スマトラ銃についての記録並びに考察	01～36	
427	170	S60. 6	斎 藤 利 生	安乗崎鋳鉄砲の材質について	37～45	
428	171	S60. 7	川 越 重 昌	仙台藩内の銃砲及び火薬史覚え書(20)	01～37	
429	171	S60. 7	山 田 太 郎	<海軍造兵資料>「コールドライト」(無煙火薬)の採用	38～48	
430	172	S60. 9	川 越 重 昌	仙台藩内の銃砲及び火薬史覚え書(21)	01～24	
431	172	S60. 9	澤 田 平	力様(ちからだめし)用心石と玉除(たまよけ)石	25～38	用心石
432	172	S60. 9	山 田 太 郎	<海軍造兵資料>「コールドライト」(無煙火薬)の採用(続)	39～52	
433	173	S60. 10	川 越 重 昌	仙台藩内の銃砲及び火薬史覚え書(22)	01～33	
434	173	S60. 10	所 庄 吉	砲術諸流の調査 その1	34～40	
435	173	S60. 10	山 田 太 郎	<海軍造兵資料>「コールドライト」(無煙火薬)の採用(続)	41～66	
436	174	S60. 11	川 越 重 昌	品川台場火薬史料と考察抄	01～42	
437	174	S60. 11	所 庄 吉	<承前>砲術諸流の調査 その2	43～96	
438	175	S60. 12	川 越 重 昌	仙台藩内の銃砲及び火薬史覚え書(23)	01～22	
439	175	S60. 12	所 庄 吉	砲術伝書の再検討(その1)	23～32	
440	175	S60. 12	山 田 太 郎	<海軍造兵資料>海軍用小銃ノ制定	33～49	
441	176	S61. 2	川 越 重 昌	目黒(東京)火薬庫の復元と意味考	01～31	
442	176	S61. 2	山 田 太 郎	<海軍造兵資料>海軍用小銃ノ制定(続)	32～44	
443	176	S61. 2	所 庄 吉	慶長・元和期の伝書解説	45～52	
444	177	S61. 3	川 越 重 昌	鹿児島県敷根火薬製造所	01～32	
445	177	S61. 3	山 田 太 郎	<海軍造兵資料>海軍用小銃ノ制定(続)	33～45	
446	178	S61. 4	安 田 修	尾張藩矢田河原砲場に関する一考案(1)	01～18	
447	178	S61. 4	川 越 重 昌	煙火工場爆発 或る事件記録資料抄	19～54	

IDNo.	号数	年 月	著 者	題 目	ページ	備 考
448	179	S61. 5	川 越 重 昌	鹿児島県敷根火薬製造所址（2）	01～37	
449	179	S61. 5	山 田 太 郎	<海軍造兵資料>海軍用小銃ノ制定（続）	38～49	
450	180	S61. 6	安 田 修	尾張藩矢田河原砲場に関する一考案（2）	01～38	
451	180	S61. 6	川 越 重 昌	仙台藩内の銃砲及び火薬史覚え書（24）	39～43	
452	181	S61. 7	山 田 太 郎	<海軍造兵資料>海軍用小銃ノ制定（続）	01～11	
453	181	S61. 7	川 越 重 昌	鹿児島県敷根火薬製造所址（3）	12～44	
454	181	S61. 7	南 坊 平 造	日本歴史の世紀別年表について	45～51	
455	182	S61. 9	山 田 太 郎	<海軍造兵資料>海軍用小銃ノ制定（続）	01～19	
456	182	S61. 9	川 越 重 昌	花巻周辺における幕末硝石採取製造業の復元（3）	97～164	
457	183	S61. 10	川 越 重 昌	鹿児島市滝の上火薬製造所址（1） 薩藩火薬史実蹟記（4）	01～23	
458	183	S61. 10	山 田 太 郎	<海軍造兵資料>海軍用小銃ノ制定（続）	24～42	
459	183	S61. 10	南 坊 平 造	世紀毎の日本文化発達史編集の急務	43～49	
460	184	S61. 11	川 越 重 昌	仙台藩内銃砲及び火薬史覚え書（25）	01～30	
461	184	S61. 11	山 田 太 郎	「海軍造兵史資料」信管ノ改良（自海軍創設時至日清戦争前）	31～41	
462	185	S61. 12	川 越 重 昌	鹿児島市滝の上火薬製造所址（2）	01～20	
463	185	S61. 12	中 原 正 二	わが国戦前の軍用火薬考	21～27	
464	185	S61. 12	南 坊 平 造	日本文化発達史世紀別年表	28～43	
465	186	S62. 2	所 莊 吉	日本銃砲史（1）	01～26	
466	186	S62. 2	川 越 重 昌	鹿児島市滝の上火薬製造所址（3）	27～63	
467	186	S62. 2	山 田 太 郎	「海軍造兵史資料」信管ノ改良	64～73	
468	187	S62. 3	川 越 重 昌	焰硝蔵の論理	01～26	
469	187	S62. 3	岡 田 登	中国の爆竹について	27～72	
470	187	S62. 3	山 田 太 郎	「海軍造兵史資料」信管ノ改良（続）	73～87	
471	188	S62. 4	岡 田 登	中国の爆竹について（その二）	01～38	
472	188	S62. 4	川 越 重 昌	鹿児島市滝の上火薬製造所址（4）	39～61	
473	188	S62. 4	南 坊 平 造	日本文化発達史年表 その3	62～77	
474	189	S62. 5	所 莊 吉	日本銃砲史（2）	01～30	
475	189	S62. 5	川 越 重 昌	鹿児島市滝の上火薬製造所址（5）	31～58	
476	189	S62. 5	山 田 太 郎	「海軍造兵史資料」信管ノ改良（続）	59～76	
477	190	S62. 6	所 莊 吉	日本銃砲史（3）	01～19	
478	190	S62. 6	川 越 重 昌	幕府の和泉新田焰硝蔵復元素描	20～41	
479	191	S62. 7	川 越 重 昌	鹿児島市滝の上火薬製造所址（6）	01～30	
480	191	S62. 7	山 田 太 郎	「海軍造兵史資料」信管ノ改良（続）	31～50	
481	192	S62. 9	斎 藤 利 生	「ワシントンで見つけた長州台場砲」	01～18	
482	192	S62. 9	川 越 重 昌	花巻周辺における幕末硝石採取製造業の復元（4）	113～152	
483	193	S62. 10	斎 藤 利 生	横浜の外国砲	01～17	
484	193	S62. 10	川 越 重 昌	鹿児島市滝の上火薬製造所址（7） 薩藩火薬史実蹟記（10）	18～37	
485	194	S62. 11	有 馬 成 甫	「南北戦争における銃器の問題」	01～12	
486	194	S62. 11	川 越 重 昌	加賀藩野田村幻の焰硝蔵	13～29	
487	195	S62. 12	所 莊 吉	日本銃砲史（4） 鉄砲伝来説の検証（2）	01～30	
488	195	S62. 12	川 越 重 昌	鹿児島市滝の上火薬製造所址（8） 薩藩火薬史実蹟記（11）	31～48	
489	196	S63. 2	斎 藤 利 生	三笠公園の鋳鉄砲	01～11	
490	196	S63. 2	川 越 重 昌	鹿児島市滝の上火薬製造所址（9） 薩藩火薬史実蹟記（12）	12～36	
491	196	S63. 2	山 田 太 郎	「海軍造兵史資料」機関砲採用始末	37～51	
492	197	S63. 3	所 莊 吉	砲術諸流派の調査 その3	01～36	
493	197	S63. 3	斎 藤 利 生	横須賀米軍基地の鋳鉄短砲	37～50	
494	197	S63. 3	川 越 重 昌	仮説 幻の加賀藩焰硝蔵再考（附）土清水火薬製造所仮説復元	51～91	
495	198	S63. 4	所 莊 吉	砲術諸流派の調査 その4	01～43	
496	198	S63. 4	川 越 重 昌	薩摩の孤火 種子島伝来火薬考	44～66	
497	199	S63. 5	所 莊 吉	大槻玄沢と砲術備用序録	01～20	

IDNo.	号数	年 月	著 者	題 目	ページ	備 考
498	199	S63. 5	川 越 重 昌	仙台藩内銃砲及火薬史覚え書（26）	21～50	
499	199	S63. 5	山 田 太 郎	「海軍造兵史資料」機関砲採用始末（続）	51～72	
500	200	S63. 6	所 庄 吉	砲術諸流派の調査 その5	01～32	
501	200	S63. 6	粕 谷 利 一	庄内藩塩硝蔵通史 特にその初期塩硝（火薬）事情について（前編）	33～63	
502	201	S63. 7	川 越 重 昌	品川台場火薬庫及び収納法の復元（下）	01～25	
503	201	S63. 7	粕 谷 利 一	庄内藩塩硝蔵通史 特にその初期塩硝（火薬）事情について（後編）	26～59	
504	202	S63. 9	所 庄 吉	砲術諸流派の調査 その6	01～43	
505	202	S63. 9	川 越 重 昌	仙台藩内の銃砲及び火薬史覚え書（27）	44～66	
506	202	S63. 9	山 田 太 郎	「海軍造兵史資料」機関砲採用始末（続）	67～84	
507	203	S63. 10	斎 藤 利 生	靖国神社の百五十封度砲と薩摩藩の造砲	01～14	
508	203	S63. 10	川 越 重 昌	仙台藩内の銃砲及び火薬史覚え書（28）	15～44	
509	204	S63. 11	所 庄 吉	砲術諸流派の調査 その7	01～31	
510	204	S63. 11	川 越 重 昌	仙台藩内の銃砲及び火薬史覚え書（29）	32～54	
511	204	S63. 11	岡 田 登	中国における爆竹の使用と黒色火薬	55～75	
512	205	S63. 12	川 越 重 昌	仙台藩内の銃砲及び火薬史覚え書（30）	01～24	
513	205	S63. 12	岡 田 登	中国の唐代、五代・十国時代に兵器として使われた火器	25～52	
514	206	H01. 2	所 庄 吉	砲術諸流派の調査 最終回	01～41	
515	206	H01. 2	川 越 重 昌	仙台藩内の銃砲及び火薬史覚え書（31）	42～71	
516	206	H01. 2	山 田 太 郎	「海軍造兵史資料」機関砲採用始末（続）	72～85	
517	207	H01. 3	斎 藤 利 生	佐賀藩の長崎警備と百五十封度砲	01～20	
518	207	H01. 3	川 越 重 昌	花巻周辺に於ける幕末硝石採取製造業の復元（5）	21～152	
519	208	H01. 4	所 庄 吉	日本銃砲史（5）	01～14	
520	208	H01. 4	川 越 重 昌	仙台藩内の銃砲及び火薬史覚え書（32）	15～26	
521	209	H01. 5	所 庄 吉	日本銃砲史（6）	01～13	
522	209	H01. 5	川 越 重 昌	仙台藩内の銃砲及び火薬史覚え書（33）	14～25	
523	209	H01. 5	山 田 太 郎	「海軍造兵史資料」機関砲採用始末（最終回）	26～34	
524	210	H01. 6	所 庄 吉	ペルリのもたらせる小火器に就いて	01～16	
525	210	H01. 6	川 越 重 昌	鹿児島市谷山作硝場（1） 薩摩火薬史跡実踏記（13）	17～37	
526	210	H01. 6	山 田 太 郎	「海軍造兵史資料」 仮呉兵器製造所設立経過	38～55	
527	211	H01. 7	川 越 重 昌	鹿児島市谷山作硝場（2） 薩摩火薬史跡実踏記（14）	01～27	
528	211	H01. 7	所 庄 吉	古式銃砲の鑑定基準	28～36	
529	211	H01. 7	山 田 太 郎	「海軍造兵史資料」 仮呉兵器製造所設立経過（続）	37～52	
530	212	H01. 9	川 越 重 昌	鹿児島市谷山作硝場（3） 薩摩火薬史跡実踏記（15）	01～33	
531	212	H01. 9	池 田 浩 理	アーミー、リボルバー（32口径Smith&WessonモデルNo.2）について	34～39	
532	213	H01. 10	川 越 重 昌	鹿児島市谷山作硝場（4） 薩摩火薬史跡実踏記（16）	01～23	
533	213	H01. 10	山 田 太 郎	「海軍造兵史資料」 仮呉兵器製造所設立経過（続）	24～42	
534	213	H01. 10	池 田 浩 理	ミントン銃器会社に於ける実包製造の系譜	43～50	
535	214	H01. 11	川 越 重 昌	硝石製造法図解（1） 山田森重「生硝一日四籠煎煉法」の場合（上）	01～19	
536	214	H01. 11	山 田 太 郎	「海軍造兵史資料」 仮呉兵器製造所設立経過（続）	20～41	
537	215	H01. 12	中 原 正 二	陸軍岩鼻火薬製造所（その1）	01～15	
538	215	H01. 12	川 越 重 昌	硝石製造法図解（1） 山田森重「生硝一日四籠煎煉法」の場合（下）	16～44	

IDNo.	号数	年 月	著 者	題 目	ページ	備 考
539	216	H02. 2	中 原 正 二	陸軍岩鼻火薬製造所（その2）	01～16	
540	216	H02. 2	川 越 重 昌	硝石製造法図解（2） 上島半兵衛忠文の硝石製造法伝の場合（上）	17～47	
541	216	H02. 2	山 田 太 郎	「海軍造兵史資料」 仮呉兵器製造所設立経過（完）	48～65	
542	217	H02. 3	川 越 重 昌	硝石製造法図解（2） 上島半兵衛忠文の硝石製造法伝の場合（下）	01～24	
543	217	H02. 3	所 荘 吉・赤羽通重	松本市歴史資料館所蔵の韓国古火器について	25～39	共著
544	218	H02. 4	川 越 重 昌	硝石製造法図解（3） 薩藩谷山での「作硝局実験鈔」の場合（上）	01～34	
545	218	H02. 4	澤 田 平	日野鉄砲	35～42	
546	219	H02. 5	川 越 重 昌	硝石製造法図解（3） 薩藩谷山での「作硝局実験鈔」の場合（中）	01～18	
547	219	H02. 5	所 荘 吉・赤羽通重	補訂 松本市歴史資料館所蔵の韓国古火器について	19～22	共著
548	219	H02. 5	山 田 太 郎	「海軍造兵史資料」砲桶の問題	23～45	
549	220	H02. 6	川 越 重 昌	硝石製造法図解（3） 薩藩谷山での「作硝局実験鈔」の場合（下）	01～15	
550	220	H02. 6	山 田 太 郎	「海軍造兵史資料」砲桶の問題（続）	16～32	
551	221	H02. 7	所 荘 吉	文永役の「てつはう」鉄砲と磁砲の関係	01～08	
552	221	H02. 7	粕 谷 利 一	続 硝石考現学	09～43	
553	222	H02. 9	川 越 重 昌	鹿児島市谷山作硝場（5）. 薩摩火薬史跡実踏記（17）	01～19	
554	222	H02. 9	所 荘 吉	中国に於ける銅銃の出現とその展開	20～29	
555	223	H02. 10	川 越 重 昌	鹿児島市滝の上製造場址終稿. 薩摩火薬史実踏記（18）	01～12	
556	223	H02. 10	赤 羽 通 重	スランカメンの銃砲戦 ヨーロッパにもあった長篠合戦	13～26	
557	224	H02. 11	川 越 重 昌	鹿児島敷根火薬製造所終稿. 薩藩火薬史実記（19）終	01～13	
558	224	H02. 11	山 田 太 郎	「海軍造兵史資料」克式砲ノ採用	14～31	
559	225	H02. 12	川 越 重 昌	五箇山塩硝私考（1）	01～30	
560	225	H02. 12	生 田 豊太郎	火縄についての考察	31～46	
561	226	H03. 2	川 越 重 昌	五箇山塩硝私考（2）	01～31	
562	226	H03. 2	岡 田 登	仙台花火小史	32～82	
563	227	H03. 3	川 越 重 昌	五箇山塩硝私考（3）	01～23	
564	227	H03. 3	岡 田 登	尾張花火の歴史その一考察（その1）	24～33	
565	227	H03. 3	山 田 太 郎	「海軍造兵史資料」速射砲ノ採用	34～41	
566	228	H03. 4	川 越 重 昌	五箇山塩硝私考（4）	01～30	
567	228	H03. 4	安 斎 実	世界射撃史	31～53	
568	229	H03. 5	川 越 重 昌	五箇山塩硝私考（5）	01～36	
569	229	H03. 5	山 田 太 郎	「海軍造兵史資料」 32 増加式砲採用ノ経緯	37～57	
570	230	H03. 6	川 越 重 昌	五箇山塩硝私考（6）	01～23	
571	230	H03. 6	安 斎 実	世界射撃史（第2回）	24～34	
572	231	H03. 7	川 越 重 昌	五箇山塩硝私考（7）	01～18	
573	231	H03. 7	赤 羽 通 重	「ヨーロッパ火縄銃」見聞記	19～27	
574	232	H03. 9	川 越 重 昌	五箇山塩硝私考（8）	01～20	
575	232	H03. 9	生 田 豊太郎	タンネンベルク銃筒のレプリカについて	21～38	
576	232	H03. 9	山 田 太 郎	「海軍造兵史資料」克式砲ノ採用（続）	39～52	
577	233	H03. 10	川 越 重 昌	五箇山塩硝私考（9）	01～26	
578	233	H03. 10	赤 羽 通 重	（承前）「ヨーロッパ火縄銃」見聞記	27～38	
579	233	H03. 10	山 田 太 郎	「海軍造兵史資料」山内閉鎖機及ピ山内砲架ノ採用	39～63	
580	234	H03. 11	川 越 重 昌	五箇山塩硝私考（10）	01～20	
581	234	H03. 11	所 荘 吉	砲術諸流派の調査（補遺）	21～47	
582	235	H03. 12	川 越 重 昌	五箇山塩硝私考（11）	01～21	

IDNo.	号数	年 月	著 者	題 目	ページ	備 考
583	235	H03. 12	安 斎 実	世界射撃史 (第3回)	22～31	
584	236	H04. 2	川 越 重 昌	五箇山塩硝私考 (1 2)	01～17	
585	236	H04. 2	安 斎 実	世界射撃史 (最終回)	18～33	
586	237	H04. 3	川 越 重 昌	五箇山塩硝私考 (1 3)	01～21	
587	237	H04. 3	所 荘 吉	江戸時代における銃砲規制の変遷 (前)	22～42	
588	238	H04. 4	川 越 重 昌	五箇山塩硝私考 (1 4)	01～26	
589	238	H04. 4	所 荘 吉	江戸時代における銃砲規制の変遷 (後)	27～55	
590	239	H04. 5	川 越 重 昌	五箇山塩硝私考 (1 5)	01～10	
591	239	H04. 5	所 荘 吉	壬申の銃砲取締規制について	11～31	
592	240	H04. 6	岡 田 登	中国における黒色火薬の発明 —その発展過程と実用化の時期—	01～19	
593	240	H04. 6	川 越 重 昌	五箇山塩硝私考 (1 6)	20～42	
594	241	H04. 7	川 越 重 昌	種子島鉄砲伝来時の火薬製法は如何に教 わったか (1)	01～22	
595	241	H04. 8	岡 田 登	中国、宋代における火器と火薬兵器	①～②⑩	末尾頁より
596	242	H04. 9	川 越 重 昌	種子島鉄砲伝来時の火薬製法は如何に教 わったか (2)	01～29	
597	242	H04. 9	粕 谷 利 一	藩政時代の硝石の収量とその化学分析	30～56	
598	242	H04. 9	赤 羽 通 重	「講話」トルコ史にみられる鉄砲の用法	57～64	
599	243	H04. 10	川 越 重 昌	五箇山塩硝私考 (1 7) 簡易硝石土検証法	01～12	
600	243	H04. 10	粕 谷 利 一	藩政時代の硝石の収量とその化学分析	13～41	
601	244	H04. 11	川 越 重 昌	五箇山塩硝私考 (1 8)	01～11	
602	244	H04. 11	所 荘 吉	古式銃砲の用語解説 (和流砲術編)	12～47	
603	244	H04. 11	川 越 重 昌	火薬年表	48～50	
604	245	H04. 12	川 越 重 昌	五箇山塩硝私考 (1 9)	01～33	
605	245	H04. 12	所 荘 吉	古式銃砲の用語解説 (洋式砲術編)	34～67	
606	246	H05. 2	川 越 重 昌	五箇山塩硝私考 (2 0)	01～26	
607	246	H05. 2	北 村 陽 子	江戸下町鍛冶匠家資料の紹介	27～44	
608	247	H05. 3	川 越 重 昌	〔追補稿〕 品川台場用麻骨炭は栃木県壬生町産	01～08	
609	247	H05. 3	赤 羽 通 重	「ヨーロッパ火縄銃」見聞記 (3)	09～23	
610	247	H05. 3	所 荘 吉	古式銃砲の用語解説 (続洋式砲術編)	24～38	
611	248	H05. 4	川 越 重 昌	中国製硝考 (1) 旧熱河省南部、黒水地 方の製硝業 (1)	01～43	
612	249	H05. 5	川 越 重 昌	民家史からみた硝石	01～16	
613	249	H05. 5	赤 羽 通 重	コンスタンチノーブル攻撃戦	17～24	
614	250	H05. 6	川 越 重 昌	雲古から硝石への旅路	01～13	
615	250	H05. 6	所 荘 吉	「兎園小説」に見る馬上筒	14～23	
616	251	H05. 7	川 越 重 昌	人造硝石異聞	01～27	
617	251	H05. 7	所 荘 吉	短筒について	28～38	
618	252	H05. 9	川 越 重 昌	日本では硝石原料土から幾らの硝石がと れるのか (上) —その科学分析値と考慮—	01～38	
619	252	H05. 9	中 原 正 二	火薬に貢献した人々 (1) —石藤豊太—	39～48	
620	253	H05. 10	粕 谷 利 一	庄内藩の塩硝秘伝 (1)	01～13	
621	253	H05. 10	中 原 正 二	火薬に貢献した人々 (2) —山家信次—	14～22	
622	254	H05. 11	北 村 陽 子	日本橋鉄砲町と砥惣八郎	01～17	
623	254	H05. 11	粕 谷 利 一	庄内藩の塩硝秘伝 (2)	18～30	
624	254	H05. 11	所 荘 吉	銃砲史研究の寄稿要領	31～32	
625	255	H05. 12	所 荘 吉	阿久根の仏郎機について	01～18	
626	255	H05. 12	雪島宏一・ 赤羽通重	〈資料紹介〉1565年のトルコ軍による マルタ島包囲戦記 (1)	19～31	共著
627	256	H06. 2	所 荘 吉	津田流鉄砲口決記について	01～12	
628	256	H06. 2	雪島宏一・ 赤羽通重	〈資料紹介〉1565年のトルコ軍による マルタ島包囲戦記 (2)	13～28	共著
629	257・ 258	H06. 4	所 荘 吉	砲術流派の起源について	01～12	

IDNo.	号数	年 月	著 者	題 目	ページ	備 考
630	257・258	H06. 4	所 庄 吉	銃砲史に関する文献の疑問	13～22	
631	257・258	H06. 4	雪島宏一・赤羽通重	〈資料紹介〉1565年のトルコ軍によるマルタ島包囲戦記(3)	23～38	共著
632	259	H06. 5	所 庄 吉	洋式砲術書にみる熟語の成立(前)	01～21	
633	260	H06. 6	所 庄 吉	洋式砲術書にみる熟語の成立(後)	01～10	
634	261	H06. 7	所 庄 吉	銃兵号令詞の邦語化について	01～23	
635	262	H06. 10	中 原 正 二	火薬に貢献した人々(3) 一疋田強一	01～13	
636	262	H06. 10	所 庄 吉	随筆に見る鉄砲関係記事(1)	14～32	
637	263	H06. 11	山 田 太 郎	海軍造兵史(水雷ノ部)	01～52	
638	263	H06. 11	所 庄 吉	随筆に見る鉄砲関係記事(2)	53～67	
639	264	H06. 12	山 田 太 郎	海軍造兵史(水雷ノ部) 続き	01～36	
640	265	H07. 1	北 村 陽 子	下町鍛冶の輪祭り	01～05	
641	265	H07. 1	萩 原 博 志	片井京助の気砲	06～17	
642	266	H07. 4	北 村 陽 子	駄家のことども	01～15	
643	266	H07. 4	赤 羽 通 重	〔評論〕レオナルド・ダ・ヴィンチと鉄砲	16～19	
644	266	H07. 4	北 村 陽 子	〔資料紹介〕兵学・語学伝習事件乾	20～23	
645	267	H07. 5	梶 輝 行	幕末期小田原藩の西洋軍事技術の導入(1)	01～18	
646	267	H07. 5	所 庄 吉	国友鉄砲鍛冶文書 一国友十人方史料の紹介一	19～37	
647	268	H07. 9	梶 輝 行	幕末期小田原藩の西洋軍事技術の導入(2)	01～22	
648	269	H07. 10	所 庄 吉	幕末における洋式火砲について(2)	01～22	
649	270	H07. 11	所 庄 吉	幕末における洋式火砲について(3)	01～12	
650	270	H07. 11	北 村 陽 子	もう1挺のペリーのピストル	13～30	
651	271	H08. 1	所 庄 吉	一資料紹介一 将軍家のお召筒について(前)	01～10	
652	271	H08. 1	北 村 陽 子	目的地図に見る国友	11～19	
653	272	H08. 2	所 庄 吉	一資料紹介一 将軍家のお召筒について(後)	01～21	
654	272	H08. 2	安 田 修	大阪砲兵工廠製造の圧搾青銅製7センチ半 山・野砲について	22～49	
655	273・274	H08. 4	所 庄 吉	幕末に於ける西洋式の火薬製造	01～13	
656	273・274	H08. 4	所 庄 吉	高島秋帆 その光と影	14～26	
657	275	H08. 5	霜 礼次郎	幕末留学生 澤太郎左衛門の軌跡(1)	01～20	
658	276	H08. 6	所 庄 吉	徳丸原における洋式演練の評価	01～16	
659	276	H08. 6	霜 礼次郎	幕末留学生 澤太郎左衛門の軌跡(2)	17～40	
660	277	H08. 7	霜 礼次郎	幕末留学生 澤太郎左衛門の軌跡(3)	01～27	
661	278	H08. 9	霜 礼次郎	幕末留学生 澤太郎左衛門の軌跡(4)	01～23	
662	279	H08. 10	所 庄 吉	火縄銃の製作原価について 一 国友鉄砲鍛冶文書に見る一	01～13	
663	279	H08. 10	梶 輝 行	幕末期小田原藩の西洋軍事技術の導入(3)	14～30	
664	280	H08. 11	萩 原 博 志	傍装雷火銃の開発年次について	01～35	
665	281	H09. 2	所 庄 吉	井上正清の銃砲問答について	01～13	
666	281	H09. 2	霜 礼次郎	幕末留学生 澤太郎左衛門の軌跡(5)	14～37	
667	282	H09. 3	安 田 修	江戸初期における鉄砲運搬の一例	01～27	
668	283	H09. 4	北 村 陽 子	貨狄の鉄砲(能楽と古式銃)	01～17	
669	283	H09. 4	霜 礼次郎	幕末留学生 澤太郎左衛門の軌跡(6)	18～53	
670	284	H09. 5	所 庄 吉	周発台の独創性 一 西出家の周発台雛形にみる一	01～19	
671	285	H09. 7	梶 輝 行	近世後期日蘭貿易における 西洋軍事品目の輸入実態	01～40	
672	286・287	H09. 10	所 庄 吉	仏式四斤山砲について	01～15	

IDNo.	号数	年 月	著 者	題 目	ページ	備 考
673	286・287	H09. 10	川 越 重 昌	諸外国での（15世紀～18世紀末迄の）硝石製法私考（2）	16～39	
674	288	H09. 11	川 越 重 昌	諸外国（スペインからアフリカへ）での硝石製法私考（3）	01～15	
675	289	H10. 2	川 越 重 昌	諸外国（アフリカから中近東の国々へ）での硝石製法私考（4）	01～19	
676	別冊	H10. 2	所 庄 吉	再考 葡人の初来日と鉄砲伝来草稿		未製本
677	別冊	H10. 2	北 村 陽 子	ペリー砲の点火器について		未製本
678	別冊	H10. 2	所 庄 吉	安斎さんとの交友	01～06	訃報 未製本
679	290	H10. 3	川 越 重 昌	諸外国での硝石製法私考（5）	01～09	
680	別冊	H10. 3	所 庄 吉	火縄銃身の鍛接について一疑問の解明一（追加）		未製本
681	291・292	H10. 4	北 村 陽 子	ペリーの砲声	01～20	
682	291・292	H10. 4	管 野 利 雄	慶長・元和年間における伊達氏の鉄砲戦について	21～29	
683	293	H10. 5	霜 礼次郎	幕末海軍操練所の創設と澤太郎左衛門の関与について	01～29	
684	293	H10. 5	川 越 重 昌	諸外国での硝石製法私考（6）	30～42	
685	294	H10. 6	霜 礼次郎	幕末留學生が訪れたリエージュについて（その1）—製鉄史・製銃史的視点より—	01～26	
686	294	H10. 6	霜 礼次郎	幕末留學生が訪れたリエージュについて（その2）—欧州における銃鍛造法と工作機械の変遷について—	26～55	
687	294	H10. 6	川 越 重 昌	諸外国での硝石製法私考（7）	56～68	
688	295	H10. 7	霜 礼次郎	「西洋鉄砲鑄造編」と欧州の火砲の発達過程について（その1）	01～56	
689	296	H10. 9	梶 輝 行	文化4年の日蘭軍事交流の諸相	01～26	
691	296	H10. 9	所 庄 吉	「文化4年砲術について阿蘭陀カピタン江御尋之1件」	27～37	
692	297	H10. 10	霜 礼次郎	「西洋鉄砲鑄造編」と欧州の火砲の発達過程について（その2）	01～76	
693	298	H10. 11	岩 淵 誠 一	幕藩営工場での砲身中ぐり盤の製作及び稼働状況（その1）	01～63	
694	299・300	H11. 2	島 津 兼 治	マレー半島の火縄銃について 一和銃の原形を探る—	01～19	
695	299・300	H11. 2	所 庄 吉	ゴールケの「火器史」	20～48	
696	301	H11. 3	峯 田 元 治	釜屋、永瀬家所蔵の大筒（増田安治郎 作）	01～15	
697	301	H11. 3	霜 礼次郎	我が国鑄造法に与えたヒュグーニンの影響（その1）	16～47	
698	302	H11. 4	北 村 陽 子	ウィリアム・アダムスと日本橋の鉄砲師	01～15	
699	303	H11. 5	霜 礼次郎	我が国鑄造法に与えたヒュグーニンの影響（その2）	01～24	
700	304	H11. 6	粕 谷 利 一	「鹽本記」の謎と近世の製硝技術	01～34	
701	305	H11. 7	荻 原 博 志	十挺揃車臺早打仕懸銃について	01～21	
702	306	H11. 9	岩 淵 誠 一	幕藩営工場での砲身中ぐり盤の製作及び稼働状況（その2）①	01～32	
703	307	H11. 10	安 田 修	「尾張藩での鉄砲鍛冶・台師・金具師・の作業状況」 一天明三年より文化九年までの二十九年間—	01～	
704	308	H11. 11	霜 礼次郎	幕末の反射炉による鑄造砲の問題点とその技術的対応について（その1）	01～13	
705	309	H11. 12	寺 西 英 之	砲熕技術国産化と純鉄製造	01～19	

IDNo.	号数	年 月	著 者	題 目	ページ	備 考
706	310・311	H12. 2～3	所 庄 吉	「小銃製式」にみる洋式銃の製作法	01～24	
707	310・311	H12. 2～3	峯 田 元 治	青銅砲「明治天皇駐蹕之跡」の碑 増田重益 作	25～41	
708	312	H12. 4	岩 淵 誠 一	東京砲兵工廠 小銃製造所のフライス盤	01～54	
709	313	H12. 5	霜 礼次郎	幕末の反射炉による鋳造砲の問題点とその技術的対応について(その2)・佐賀藩における鉄製鋳造砲の問題点と対応	01～33	
710	314	H12. 7	安 田 修	-史料紹介- 尾張藩砲術中傳流について	01～40	
711	315	H12. 9	山 田 太 郎	艦載砲にみる度量衡の変遷	01～19	
712	316	H12. 10	寺 西 英 之	四五口径三年式四〇糎砲	01～14	
713	317	H12. 11	北 村 陽 子	村田大佐と横浜居留地のライフル大会	01～24	
714	317	H12. 11	訃 報	所 壮吉 理事長追悼号	25～38	
715	318	H12. 12	梶 輝 行	土佐藩の海防政策とヨーロッパ軍事技術導入の諸相 — 高島流砲術家・徳弘孝蔵を中心に —	01～18	赤羽 重道 氏 追悼号
716	319	H13. 2	霜 礼次郎	伝来火縄銃のルーツは? 世界のスナップ・マッチロックを訪ねて(その一)	01～28	
717	319	H13. 2	島 津 兼 治	日本火術探囊 徳永系図に依る伝来試考 第一回	29～54	
718	320	H13. 3	霜 礼次郎	伝来火縄銃のルーツは?(その二) オーストリア・グラーツ武器庫の スナップ・マッチロックを訪ねて	01～10	
719	320	H13. 3	島 津 兼 治	日本火術探囊 徳永系図に依る伝来試考 第二回	11～35	
720	321	H13. 4	霜 礼次郎	伝来火縄銃のルーツは?(その三)史料からみた世界のスナップ・マッチロック	01～12	
721	321	H13. 4	島 津 兼 治	日本火術探囊 徳永系図に依る伝来試考 第三回	13～38	
722	322	H13. 5	島 津 兼 治	日本火術探囊 徳永系図に依る伝来試考 第四回	01～44	
723	322	H13. 5	有 坂 紹 蔵	史料紹介(昭和11年) 鉄砲伝来に就いて	45～54	
724	323	H13. 6	峯 田 元 治	ある鋳鉄製大砲の解析	01～27	
725	324	H13. 7	霜 礼次郎	伝来火縄銃のルーツは?(その四)興味あるロンドン塔のスナップ・マッチロック	01～27	
726	324	H13. 7	生 田 豊太郎	史料紹介 ボルトガルよりの寄贈銃の観察記録	28～48	
727	325	H13. 9	霜 礼次郎	伝来火縄銃のルーツは?(その五) イタリアルネッサンス期にみるダ・ヴィンチの機械の解剖学 —特に「ねじとばね」について—	01～08	
728	325	H13. 9	島 津 兼 治	日本火術探囊 徳永系図に依る伝来試考 第五回	09～31	
729	326	H13. 10	安 田 修	史料紹介 筒元上面に見られる稲富一夢田付宗鉄の花押について	01～33	
730	326	H13. 10	島 津 兼 治	日本火術探囊 徳永系図に依る伝来試考 第六回	34～49	
731	327	H13. 11	霜 礼次郎	伝来火縄銃のルーツは?(その六)	01～23	
732	327	H13. 11	粕 谷 利 一	庄内藩塩硝蔵・合薬所の系譜	24～65	著者より追加資料有 新聞コピー8枚 手持ち資料3枚
733	328	H13. 12	安 田 修	四斤野(山)砲信管の鋳型について	01～07	
734	328	H13. 12	峯 田 元 治	うどん張りの一例	08～18	
735	329	H14. 2	霜 礼次郎	伝来火縄銃のルーツは?(その七)	01～21	
736	329	H14. 2	島 津 兼 治	日本火術探囊 徳永系図に依る伝来試考 第七回	22～51	

IDNo.	号数	年 月	著 者	題 目	ページ	備 考
737	330	H14. 4	霜 礼次郎	伝来火縄銃のルーツは？(その八) 大航海時代のスナップ・マッチロック について	01～26	
738	331	H14. 6	霜 礼次郎	伝来火縄銃のルーツは？(最終回)	01～07	
739	331	H14. 6	中 原 正 二	中国遺棄化学兵器の廃棄について	08～15	
740	332	H14. 7	中 原 正 二	1400 年頃の黒色火薬	01～13	
741	332	H14. 7	霜 礼次郎	種子島に火縄銃を伝来したのはポルトガ ルの傭兵か	14～37	
742	333	H14. 9	霜 礼次郎	アジアにおけるスナップ・マッチロック (伝来火縄銃)の伝統について	01～11	
743	333	H14. 9	中 原 正 二 訳	(火術書)1400 年頃の中世ドイツの黒色火 薬(2)	12～22	
744	334	H14. 10	中 原 正 二 訳	(火術書)1400 年頃の中世ドイツの黒色火 薬(3)	01～13	本号より横書き
745	334	H14. 10	峯 田 元 治	うどん張りの筒 尾栓雌ネジ製造例	14～24	
746	335	H14. 11	中 原 正 二 訳	(火術書)1400 年頃の中世ドイツの黒色火 薬(4)	01～12	
748	335	H14. 11	霜 礼次郎	イスラム文化と火砲について	13～49	
749	335	H14. 11	峯 田 元 治	幕末の英傑 小栗上野之介の大砲(1)	50～54	
750	別冊	H14. 11	池田浩理・中津章	日野・小室式自動装填式拳銃の諸元		進呈 著者
751	336	H15. 2	中 原 正 二	(火術書)1400 年頃の中世ドイツの黒色火 薬(5)	01～11	
752	336	H15. 2	霜 礼次郎	火器の誕生とヨーロッパの戦争(その1)	12～33	
753	336	H15. 2	島 津 兼 治	日本火術探囊 徳永系図に依る伝来試考 第八回	34～51	
754	337	H15. 3	中 原 正 二 訳	(火術書)1400 年頃の中世ドイツの黒色火 薬(6)(最終回)	01～15	
755	337	H15. 3	霜 礼次郎	火器の誕生とヨーロッパの戦争(その2)	16～33	
756	337	H15. 3	島 津 兼 治	日本火術探囊 徳永系図に依る伝来試考 第九回	34～55	
757	338	H15. 4	霜 礼次郎	火器の誕生とヨーロッパの戦争(その3)	01～26	
756	338	H15. 4	成 東	資料紹介 載梓の連発式鉄砲は機関銃と いえるか (成 東)	27～29	
757	339	H15. 5	峯 田 元 治	幕末の英傑 小栗上野之介の大砲(2)	01～08	
758	339	H15. 5	霜 礼次郎	中島流の火縄銃について	09～32	
759	340	H15. 6	霜 礼次郎	火縄銃銃身のルーツについて (特にヨーロッパ古銃と和銃との比較)	01～12	
761	340	H15. 6	生 田 豊 太 郎	インターネット上の火縄銃に関して	13～19	
762	341	H15. 9	峯 田 元 治	江戸後期の火縄銃尾栓ネジ構造の比較	01～10	
763	341	H15. 9	島 津 兼 治	日本火術探囊 徳永系図に依る伝来試考 (王直について)	11～29	
764	342	H15. 10	岡 崎 清	彦根城博物館銃砲関係史料について	01～07	
765	342	H15. 10	中原 正二・ 峯田 元治	彦根城博物館蔵毒煙処方「慶軍毒煙法」 「敵軍毒煙法」と中島流	08～21	共著
766	343	H15. 11	山 田 太 郎	成東著「載梓の連発式鉄砲は機関銃とい えるか」について	01～13	
767	343	H15. 11	霜 礼次郎	オスマントルコの火縄銃	14～35	
768	344	H16. 3	島 津 兼 治	徳永系図に依る伝来試考(七)東洋遍歴記 と日本資料	01～22	
769	344	H16. 3	山 田 太 郎	日本海軍火薬工廠年表	23～39	
770	345	H16. 7	今 津 浩 一	ペリー提督の地図と大砲 ―ペリー提督 の日本地図と浦賀役人の軍事知識―	01～17	
771	345	H16. 7	山 田 太 郎	日本海軍東京造兵廠年表	18～29	
772	345	H16. 7	質 疑 応 答	宇田川先生を囲んで(04 年 5 月 8 日)	30～32	
774	346	H16. 9	中 原 正 二	日本銃砲史学会の活性化を ―理事長に就任して―	01～02	第 346 特別号
775	346	H16. 9	板橋区立 郷土資料館	シンポジウム「日本の砲術―和流砲術から西 洋流砲術へ」の開催について	03～04	

IDNo.	号数	年 月	著 者	題 目	ページ	備 考
776	346	H16. 9	宇田川 武 久	砲術史からみた鉄砲の伝来	05～13	第 346 特別号
777	346	H16. 9	安田 修・小笠原 信夫・峯田 元治	大垣藩の田付流鉄砲流派について(共著)	14～31	
778	346	H16. 9	霜 礼次郎	中島流とその砲術型	32～39	
779	346	H16. 9	島 津 兼 治	森重流砲術	40～47	
780	346	H16. 9	峯 田 元 治	幕末の大砲について―青銅の鑄造砲―	48～56	
781	346	H16. 9	小 西 雅 徳	西洋流砲術の導入とその終焉	57～60	
782	346	H16. 9	斉 藤 努	鉄砲の材質と製作技法の自然科学的調査	61～65	
783	347	H16. 11	今 津 浩 一	ペリー提督が幕府へ贈った大砲	01～19	
784	347	H16. 11	磯 村 照 明	閉塞型ペーパー・カートリッジ	20～33	
785	347	H16. 11	峯 田 元 治	和製 COLT NAVY 伝小栗上野介遺品の拳銃	34～44	
786	347	H16. 11	安田 修・磯村照明	西南戦争に使用した弾薬運搬函について	45～63	共著
787	347	H16. 11	峯 田 元 治	彦根城博物館蔵 砲術史料 香山又蔵 文書三通	14～01	
788	348	H17. 3	磯 村 照 明	千葉市立郷土博物館に寄贈された弾薬類 の鑑定	01～05	
789	348	H17. 3	中 原 正 二	炸薬の変遷 ―ピクリン酸から…CL-20?―	06～21	
790	348	H17. 3	山 田 太 郎	日本海軍横須賀工廠造兵部年表	22～30	
791	348	H17. 3	佐 藤 進	「鉄砲をすてた日本人」ノエル・ペリン 著(中公文庫) ―現代技術論で読む試み―	31～45	
792	348	H17. 3	今 津 浩 一	ペリー艦隊が贈った大砲の教科書 ―献辞と鉛筆書きメモの謎を読み解く―	46～56	
793	348	H17. 3	山 田 太 郎	日本海軍佐世保工廠造兵部年表	57～66	
794	349	H17. 6	小 西 雅 徳	高島秋帆と徳丸原洋式調練	01～13	
795	349	H17. 6	梶 原 利 夫	日本の鑄鉄砲破裂の原因(佐賀藩の事例)	14～18	
796	349	H17. 6	磯村照明・安田修	愛知県刈谷市・旧家の洋式銃調査	19～36	共著
797	349	H17. 6	青 木 孝	「肩へ銃」 幕末歩兵の基本姿勢	37～50	
798	349	H17. 6	安 田 修	鉄砲運搬・保管箱について	51～61	図形作成 峯田 元治
799	349	H17. 6	磯村照明・峯田元治	ペリンの拳銃弾	62～71	共著 技術協力 梶原 利夫
800	350	H17. 10	山 田 太 郎	日本海軍川棚工廠年表	03～06	
801	350	H17. 10	山 田 太 郎	日本海軍舞鶴工廠造兵部年表	07～16	
802	350	H17. 10	中 原 正 二	ニトロセルロースの忘れられた用途 ―人類初の〇〇〇―	17～22	
803	350	H17. 10	峯 田 元 治	―幕府 内海台場大砲製造― 鑄物師 釜屋六右衛門の系譜	23～31	
804	350	H17. 10	岡 崎 清	佐久間象山の砲学図編	32～42	
805	350	H17. 10	峯 田 元 治	第 357 回日本銃砲史学会 7 月例会の報告	43～44	第 357 回日本銃砲 史学会 7 月例会 (第 1 回地方大会) 会場 新城市設楽原
806	350	H17. 10	宇田川 武 久	鉄砲と合戦	45～53	
807	350	H17. 10	小 林 芳 春	「長篠・設楽原の戦い」の検証 柵際の 戦いは、「鉄砲計」の戦い	54～60	
808	350	H17. 10	夏 目 利 美	台地の遺構は陣城か	13～01	

「銃砲史研究」総目録 (第1号～第350号)

日本銃砲史学会広報担当	岡崎清	製作
日本銃砲史学会副会長	山田太郎	監修

平成18年6月10日 発行
日本銃砲史学会 編集発行
編集兼発行人 中原正二

連絡先 岡崎清
〒607-8345 京都市山科区西野離宮町2-1 E213
TEL・FAX 075-594-3145

禁無断転載